

堺南御坊

2008年4月号

第320号

東本願寺堺南御坊

〒590-0944(難波別院堺支院)

堺市堺区楠屋町東四丁一一二九

電話〇七二一三八一三五三九

生き物のつながり

地球上では、無数の生き物が互いに深くかわり合って生きています。

原生林では、木の葉を食べる幼虫が育ち、草木の花や実に昆虫や鳥・小動物が集まり、これらを食べる肉食動物も集まっています。

積もった落ち葉をダニが食べ、微生物が分解して腐葉土となり、キノコや山菜が育ち草食動物も生活します。

雨が降ると、腐葉土や草木の根が水を吸い込んで『緑のダム』となり地中に水を貯め込んで、その水が谷川から海へ流れ込みます。

腐葉土などに含まれる栄養素が流水に溶けて海に届き、プランクトン(微生物)を育て、魚介類や海藻などが繁殖し、豊かな海となります。このように、山と海は深くつながっているのです。

万物の命との共生
仏教は《森で生まれた宗教》といわれ、「この

世の中に無駄なものは「つもない」と説きます。

人間も、自然界の一員であると認識して暮らしてきたのはアイヌ民族な

採り、自然界のバランスが崩れないように配慮しての生活でした。

これは、《無益な殺生(生き物を殺す)》は大き

ですから、作った料理を食べ切れずに捨てるのは、厳に慎むべきことです。

『如來の願い(本願)』(上) 法話6 能岡淨(堺市・願成寺住職)

狩猟の民です。

生き物は《恐れ多い神からの贈り物》と考え、必要な時に必要量だけを

な罪惡》であり《欲を少なく満足することを知る(小欲知足)》のお釈迦様(釈尊)の教えに通じるものです。

人間が自然を破壊

昔は、作物が育つ田畠の土にミミズや多くの虫

などが住み、腐植土を食



べて分解し、柔らかい肥えた土を作っていました。根をグンとのばし、水と養分を十分に吸い上げたトマトやキュウリなどのが花が咲き、多くの昆虫が蜜を求めて飛んで来て受粉が起き、日光を浴びて育った色の濃い・香り高い野菜ができるいました。

野菜ができていました。今、出回っている野菜の多くは促成栽培や温室育ちで、味や香りが昔に比べて変わりました。また、都市開発で田畠や池、山林や森が姿を消し、トンボやチョウなどの昆虫や小鳥も減り、自然破壊が年々進んでいます。さらに、公園や道路わき・山や川にゴミが捨てられ、車の廃棄ガスなどで空気も汚れ、地球の温暖化も深刻になってきました。

知識と智慧

全ての生き物に対し、相手の身になつて考えることができる人が人間である」と仏教は説きました。

人間は本来、思考能力を持ちますが、頭の中が煩惱(心をかき乱す欲望)で一杯の時は、理性を失います。

釈尊は「恥を知らない者は人間ではない」と言いました。

花が咲き、多くの昆虫が蜜を求めて飛んで来て受粉が起き、日光を浴びて育った色の濃い・香り高い野菜ができるいました。根をグンとのばし、水と養分を十分に吸い上げたトマトやキュウリなどのが花が咲き、多くの昆虫が蜜を求めて飛んで来て受粉が起き、日光を浴びて育った色の濃い・香り高い野菜ができるいました。

行為には、知識と智慧の二種類があると仏教は説きます。

知識とは

《魚には背骨があるから、私と同じ脊椎動物だ》など、客観的・

科学的な見方で書物や体験から学ぶ理論です。

これに対して、例えば《魚をマナ板の上に乗せるとピチピチはねるのは死ぬのが怖いからだ。私も切り殺されるのは恐ろしくて怖い》と、私が相手と一心同体になり切っている状態のものの見方が《智慧》です。

生き物の立場に立ち、生き物の命と私の命とを同一にして見るというのが智慧(めざめ)で、仏教が説くものです。

精進料理の《精進》は「ひたすら仏道修行に励むこと」また「心身を清め、行いを慎むこと」の意味から《魚・鳥・獸の肉を食べないこと》をも言うようになりました。

料理する時、私と同じ赤い血を流したり、暴れ苦しむ動物たちを食材にしないのが精進料理です。しかし大豆の加工品《がんもどき(雁の肉に似た食品)》などは「肉を食べたい」の願望を表した精進料理の一品です。

親鸞聖人は《あらゆる生き物の命は、私たちの父母兄弟と同じほど尊い

もの。また、生きていく限り、どんなに努力しても人間の食欲などの欲望は無くせない》のお考えから、肉食妻帯を実践されたのです。

如来の願い(本願)

《人間よ、本当の人間になって下さい》が如来の願いです。

如来とは、仏陀(めざめた人)のことで《眞実(如)がここに来る》の意味で、人間を仏陀にまで育てるため「私に向かって来た方」で、釈迦如来や阿弥陀如来とも表現さ

れます。

先師の「生活必需品も私たちの体でさえもが、地球からの頂きもので、《生かされて、自然の法則の中に万物の生命と共にあり》と頭が下がる時、《万物の生命に育まれて来た我が身を疎かにすることと、自然の生態系を侵すことの罪》に心が痛みます」の言葉をじっくり噛みしめ、念佛申す日々を送りたいのです。

(つづく)
平成二十年一月二十七日
宗祖聖人御遠夜法話より

知事? そうですか。都道府県の「知事」のことですよ。

知事は、明治時代の初めに設けられた官職の一つで、造幣事務を取り扱う最高責任者でした

たが、のちに、各都道府県を統括する代表者として、その最高責任者の職名となりました。中国では、知事は州や県などの地方の長官を指して

いましたから、それがわが国に入ってきたのでしょう。

生活の中の佛教語

ち 知事

仏教では、寺院の雜事や庶務をつかさどる僧の役名でした。

よく庶務をつかさどり、教団の財物を保護し、諸僧の希望するものに適応し、戒律をよく保ち、

公正な心の持ち主、そんな聖者を知事に任命しました。

禅宗寺院には六知事が設けられ、諸務を分担しています。

このように、仏教寺院にとって、仏道を修行する僧たちのために、知事は重要な役割を持つ僧職でした。

知事は、住民のための公僕ですよね。

泰龍著「仏事事典」パート五